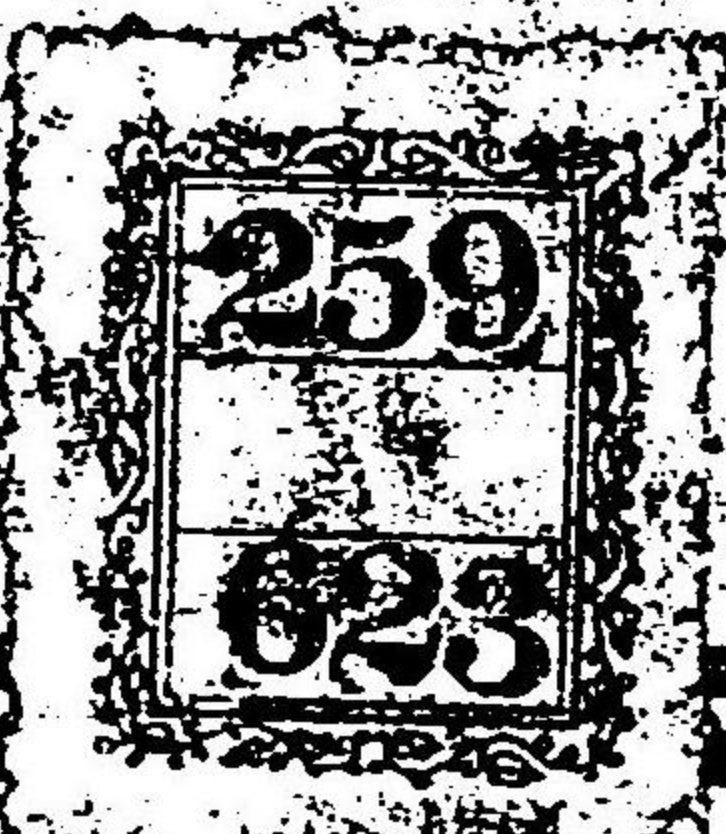


美編會年少國帝

棘苦學成功案內



部版出會年少國帝

はし
予此の著を公に
した素志は綺羅錦繡を纏へ黄金懷
に満つ月の貴公子に愛讀を希ふにあらず一攫千金港
夢みる冒險者に示さん爲めでもない要は前途に多
の望を抱くも貧困にして學資なきを慨くの士に一片
の光明を興へ以て奮起せしめんとするに外ならない
のである本書を讀むの士幸に予の微衷を得ば本懐是
れに過ぎないのである

明治四十二年初秋

霞 崖 生 識

4 9 28
内交

目 次

<p>筆耕……………二五</p> <p>廣告募集員……………二四</p> <p>新聞配達……………二三</p> <p>牛乳配達……………二〇</p> <p>活版職工……………一九</p> <p>自炊生活……………一八</p> <p>下宿屋生活……………一七</p> <p>苦學の方法……………一六</p> <p>欺かれ易き市内の悪魔……………一四</p> <p>注意すべき事務員募集……………一三</p> <p>雇人口入業の内様……………一〇</p> <p>苦學の門戸……………九</p> <p>出京の注意……………七</p> <p>出京の準備……………六</p> <p>金満學生の無能……………三</p> <p>緒論……………一</p>	<p>書生……………二六</p> <p>郵便電信集配人……………二七</p> <p>諸會社の人夫……………二八</p> <p>砲兵工廠其他の職工……………三〇</p> <p>人力車夫……………三三</p> <p>屋臺の夜商賣……………三五</p> <p>其他苦學に適當なる職業……………三六</p> <p>圖書館の獨學……………四一</p> <p>苦學に適當なる諸種の學校……………四二</p> <p>金を呉れる學校……………四九</p> <p>貸費で養成する學校……………五三</p> <p>就職の手續……………五六</p> <p>成功の秘訣……………五八</p> <p>結論……………五九</p> <p>著者一言……………六〇</p> <p>以上……………</p>
---	--

東京 苦學成功案内

帝國少年會編纂

明治

43 9 28

内交

緒論

日進月歩の今日、人より以上に成功したい、拔群の成功者と成りたいと思ふは、衆人皆同一であつて、最早棺箱に近づいた老人すら斯く思はないではあるまい、況して前途に多大の望を有して居る少年は、より以上否幾千百倍其の成功を望むで居る事であらふ、何時の世でも人の頭に成りたい人の上より立ちたいと云ふのは止まない、況して文明の今日であるものに斯くあるべきであるのだ、少年が斯く人の上に立ちたい、成功したいと云ふ即ち向上的精神があればこそ、第二の文明は生み出され、世の進歩發達は繼續されるのである、されば少年諸君の向上的精神は、諸君一個の爲めのみでなく、即ち社界の爲めと言ふても穴勝無理ではあるまい、地位も得名譽も得金も得、

其の上國家社界の爲めに貢献すると云ふては、實に甘い事ではないか、眞に甘いのである、されば世の少年諸君は皆向上的精神を發揮すべきである、大ひよ成功すべきである。

然るに諸君、昔は随分赤貧洗ふが如き人でも苦學否獨學の結果大成功者と成た者が尠ない、然し明治の今日は金である、學問するには如何しても金が必要である、何故なればと云ふに、學校に入らうとすれば束修やら月謝やら、其の他種々の費用を要するよし獨學しやうとしても圖書館などへ行くのも矢張金だ、自分で書籍を買つて讀むとすれば申迄もなく金である、其の他教員の檢定試験とか醫士の開業試験を受けるにしても一定の試験料を取られる事は諸君の熟知する如くである、されば金がなければ學問する事が出来ないかと云ふに、そんな事は無い、今迄の實例に因つて見るに、溢れる程の金を費つて學問した奴より、一文の學費なく即ち苦學した人の方が成功者が多いから面白いではないか、著者は苦學成功談を此處に書いて貴重の紙面を閉けるを欲

しないから、それは諸君が他の成功立志傳等で見てもらいたい、諸君が金が無いが學問をしたい、成功したいと云ふ精神あら、何ひで成らない事はない、學問を爲すには金より精神なのだ、古語にもあるではないか、「精神一到何事か成らざらん」と眞に精神である。

金満學生の無能 (最後の勝利は苦學生也)

學生の數天下幾百萬人あるであらふ、此の東京ですら學生の總數二十萬人と計上せられてある、此の二十萬の學生が皆成功するとしたらば、何れの家へ行つても學者が居り、日本國中學者で鉢合せを仕なければならぬ譯だ、然るに事實は大に是れに反して、成功者は此の一割もない一分もないのだ、諸君何ひと不思議なる話ではないか、學問せんとする心はあり其れに足るべき學費はあり學校はあり、即ち三拍子揃つて居るからには皆成功すべきなのである、諸君は想ふであらふ余に學費あらば鬼に鐵棒なりと、然るに彼等金満學生は素より成功したい爲に學問するのではなく、其の親仁

も亦息子の成功を祈る爲に學校に入れるのではないのだ、と云ふのは「私の處の息子も中學校は卒業させましたがまゝ家へ置いても仕方はないし又卒業の時には村の名譽にも成りますから東京の法律大學校へやりました」などと、親仁からして我子を勵ます心がないから其の子も「吾輩パンの爲に學問せず故郷に資産は山と積むである吾輩の學ぶは道樂にあり」などと、勝手な事を吹き立て、居るから、學問の上達處か漸々退歩する、學校には行き度なくなる、意氣相投する悪友は來る、芝居に行く寄席も行く、女義太夫の顔は拜見する、遂に花柳の巷に行く悪魔は年中附き纏ふ様になる、學校は退學させられる、まゝ當時金満學生の多くは斯様な具合に進むで行つて、結局は學資の斷絶となつて、法網に掛る様な事は尠くないのである、金満學生の成功せんのは眞に無理はないのである。

此れに反して、苦學生にはこんな事は無いのは著者の證明する處だ、否仕なくも出來ないのである、如何に自身に仕たくとも金の無い者には悪魔が來ない、悪友等も勿論來ない何も來なければ學問も勉強するやうよなるのである、よし多少の金はあるとも自身に働いて拵いた金だから、手紙一本で親から取寄せた金の様に容易には使へない又苦學生にはうんな暇はないのである、學問したり金儲けをしたりであるから、學科以外の練習は不可能なのである、諸君精神も素より遠ひ、境遇も違つて居る苦學生、厭でも成功しすには居られないのだ、諸君自身は欲せずとも、諸君の精神及境遇が自然に成功させるから面白いではないか。

出京の準備

諸君が愈々東京に出て苦學しやうと云ふ決心になつたならば、其の準備として己れが將來苦學して成功するまでには、多大なる困難があると云ふ事を覺悟せねばならぬ、東京へ行けば如何にか爲るだらう、位の生中の考を以ては最早失敗の素である、東京に出で苦學で成功しやうと云ふ諸君には、如何なる困難にでも打勝と云ふ決心はある譯なのだ、又一つは己れの身體が世の困難と戦つても能く健康を保ち得らるゝやを試

すべきである、何を爲すにも身體が丈夫で無ければ駄目であるが、況して苦學などは人並に學問をする處へ、又人並或はそれ以上の働き即ち金拵をするのであるから、如何しても健全なる身體が必要なのである。

健全なる身體に如何なる困難にも恐れずと云ふ決心、此の二つさへあれば最早充分である、親をも頼まぬ親類をも頼まぬ、友人などは勿論頼まぬ、頼む處は鐵の如き身體と火の如き熱心だ、虎を見て石よ立つ矢の例もある、最後の月桂冠を得て世人の眼玉を飛び出さしてやう位の決心は無くてはならぬ、斯く決した諸君の胸中には最早成功の光は満たされて居るのである。

出京の注意

諸君が苦學の大決心を以て故郷を出るに當り、第一に父母兄弟に大に安心を與へなければならぬ、東京の學情に通じない父母兄弟は、有り餘る學費ある者ですら失敗する今日、一文無しで學問するなど、意外の感に打たれ、諸君の前途を大に案せらるゝ、

は親とし兄弟として大にあるべきである、故に親は無謀と語り、兄妹は危険と申される事とせう、然れども其の誤解を解き疑心を晴らさせるのは、即ち諸君の熱誠の存する處であつて、飽まで無謀でないこと學費なくとも學問し得らるゝ事を話して、安心をせしむべきである、夢にも父兄の承諾を得ずして飛び出すやうな事があつてはならぬ。

愈々父兄の許を得て出京するに當り、着京第一の方針等も定めず、矢駄羅に飛び出すのは無謀の極であつて、豫め其の方針を定めなければならぬ、即ち自身が將來の目的を第一として、其の他苦學方法等何れを探るかを指定すべきである、尤も苦學をする上に於て學費を得べき適當な職業と云ふても、臨機應邊の舉に出すべきものであるから、出京もせん内是れでなくてはならぬなど、確定まではせずとも是れをやらうと豫定し置くの必用は確にあるのである、何故なれば出京すれば思ふたより複雑な事が出来て来て、随分迷ふものであるのだ、然るに土臺とする學費の出處の職業に迷ふ

様な事があつては、無駄に日數を費すの恐があるからである。

諸君が出京して第一番に心配せんければあらんのは己れの寝るべき處である、籠城費を持つて居れば泰然と下宿屋か宿屋に構へて職業の口を探す事も出来るが、さも無ければ他の方法を講せねばならぬ、それはまづ安全なのは知己の親戚か友人の處に置いて貰ふのである、それも出し抜に來て其の家へ飛び込む様事はず、在郷の時照會して承諾を得て置くの必要がある、それも不可能な者は、後に記す處の雇人口入屋に飛び込むのである、著者は獨立と云ふ精神よりして、生中親戚や友人の厄介になるよりは、此の雇人口入屋飛込策を以て貰しとするのである。

苦學の門戸

諸君が出京一番、苦學の門戸に這入つた曉には、故郷にあつて父兄に甘い事を云はれて居たのとは事が違ふに驚くであらふ、尤も諸君はそんな心は少しも出ない筈なのだ而し賢固な精神を以て上京した苦學生中にも、其の四圍の皆悉く意外であつたのに驚

いて腰を抜かして故郷に舞戻つた例も少なくないのである、若し斯くの如き事があつたならば、父兄は素より故郷の人に恥を晒す爲め態々出京したと云ふべきで、素志にも違ひ眞に悲しむべき事である、健全なる決心ある諸君には其の様な弱い心は出べき筈はあいが、若し萬々一にも出たとすれば、其れは他日成功の前兆であつて、大に祝すべしと思つて益々健全なる精神を發揮して、辛棒しなければならぬのである。

是れと共に又襲ひ來るのは、東京市中の事々物々である、淺草では活動寫眞芝居曲藝其の他種々の手段を以て人を呼出て居る、日比谷公園は四時都人士の遊覽場所、いや彼處の芝居此處の寄席、其の他市内至る處諸君の金を取り暇を潰すべき機關は、遺憾なく整つて居るのである、又諸君の眼を引き以て諸君の心中を腐らせんとする動物は至る處横行して居るのである、若し諸君が不幸にして此の種の類々眼を移したならば最早取返しの附かぬ事である、日比谷公園にも遊びたい、淺草も見物したいなと思ふは、人情の常であるけれども、諸君は東京を見物に來たのではなく、學問すべく來た

と云ふ事を少しも忘れてはならぬのである。諸君はそんな物に眼を奪はるべき時でない、成功の光を近く眺めて進むべき時なのである。

雇人口入業の内様

愈々出京して苦學に適當なる職業を得るまで、一定の籠城費があれば宿屋なり下宿屋なりよ平氣に居られるが、左もなくして其の籠城費の無いものは、差當りパンと居所を定めなければならぬ、其れには如何しても雇人口入業即ち桂庵に飛び込むのである、只短に桂庵と云ふと一種異様の感あきにあらずと思はれる諸君もあるかは知れんが、著者は實に成功の階段として此の桂庵を特に紹介するのである。

雇人口入屋は市内至る處にあつて其の數も大分多いが、中には随分怪しい者もある、諸君はろんち處へ行かなければ何も差支はない、先づ日本橋葎町に行けば、千束屋、出世屋、大黒屋、大阪屋など大きな雇人口入屋があつて、喜むで諸君を歓迎する、ろれで午前八時から十一時までのうちに行つて頼み込むと、老人も居れば青年も居る少

年も居ると云ふ様な具合で、店先には志願者即ち被雇人が山を成して居る、其の内時間に来ると番頭が高い處へ登つて、帳面を繰返しあから「そばやの出前持行く人はないか」「湯屋の三助誰かないか」と前日雇主から申込むで来た順に讀み上げるから、其の内で自分の一番能いと思ふのがあつたら、「己が行く」と云ひばるれでよいのである前記四軒の桂庵などは中々高貴の家庭からの依頼も来るから、或る場合に依つては勉學に非常な好い機會を得る事がある。

さて愈々雇はれて行くと、初め二日か三日は目見ぬと云ふて其の人の品行動作等を試験されるのである、が此れとても諸君が實直にやりさひすれば、何も六ヶ敷い事は少しも無いのである、目見えが済むと立派な雇人となつて、保證人を立てるのだが、此れとても別に面倒な事はない、只諸君が知人でも何むにでも成つて貰はばよい、ろれで極ると桂庵へ雇主と被雇者と半分づゝ手数料を拂ふのだが、ろれは給料の内から差引いてやつて呉れるから、一文も金の必要はない譯である。然し斷つて置くが、諸君

が桂庵から或る雇主に雇れて行つたにしろ、茲に永く居る志があつてはならぬのだ。それは諸君は態々東京まで被雇人志望で来た譯ではなく、苦學せんが爲めに来たからである、故に其の家に居ながら他に苦學に適當な職業を探さねばならないのである。

注意すべき事務員募集

諸君は東京の新聞は素より、地方新聞に至るまで、職業案内欄等の廣告に、事務員募集給料十數圓何々社など給料は高く誰にも出来て、而かも高尚な事務家を募集する廣告の數多きを見るであらう、又海員至急募集など棚から牡丹餅的の廣告は日々の紙上に多きを見るであらう、此れは皆彼等の詐偽廣告なのであつて田舎出の青少年は多く此の手段に掛るのである、諸君東京に於て無職の人は廿萬人を計上せられて居るではないか、其の多數中には立派ある肩書ある人も尠ないのだ、然るに一人か二人の事務員募集にしかも比較的給料高きに廣告料を拂つて毎日の様に募集する譯はないのである、まして地方新聞にまで廣告を出すに於てをやだ、此れを以て見ても其の詐欺なる

事がわかるではないか、若し假に諸君が前記の事務員募集の何々社に行つたとせば、彼は事務員は大分入用です、好き勝手な所がありますが、其れは一々お話する事は出来ません故、此の帳簿に残らず書いてありますから此れで御覽なさい、然し帳簿の閲覧料を何十錢頂きますと云ふのである、而して奮發して閲覧料を投じて中を見れば、皆新聞廣告にある人員入用の抜書か同醜類の詐欺募集なのである、其れでも尙信じて帳簿にある雇入の會社とか商店とかへ行けば、其むな事は知らぬとか、又同醜類とすれば前記の手段を繰返し、又は満員など體よく絶るのである、而して閲覧料と言つた金錢を詐取せらるゝのみならず、少なからぬ時間を費すものであるのだ、尙彼等は種々の手段を以て諸君を待ちつゝある故、大に警戒を要するのである。

欺かれ易き市内の悪魔

天下何れの地へ行つても悪魔あらざるはなしである、而し東京位悪魔の横行甚しき處はあるまい、彼等は各方面より向つて其の手段を施して居るのである、されば諸君は東

京に入るや否や、逢ふ人毎に悪魔に逢ふ事と心得て居るべしである、況して停車場などで諸君が其の行く可き方向、乗るべき電車をも知らないで、ウロついて居るのに乗じて、親切げに言ひ寄つて其の手段に掛け、又途中道を尋ねれば、其の機に乗じて悪手段を講ずるなど、其の手段方法如何なる處にあるか計り知る事が出来ないので、著者も大に苦しむのである、然し乍ら先づ大體は餘り親切に寄り来る者は悪魔と見て差支ない、否悪魔なのである、其の他徒黨を組むで悪事醜行を専業の様よして居る、所謂パクリ書生とか等の類も尠ないのだ、されば諸君は東京の事情に通するまで、主人若しくは学校の教師等は別物として、他の人が如何なる事を言ふも、悪魔と速断して近寄らないのがよいのである、外出等の時も總て交番所に途を尋ねべしだ、若しも己れに近寄らんとする悪魔などあらば、断呼として警察へ突き出すべしだ、是れ諸君の爲のみならず、社會公衆の爲めであるのだ。

苦學の方法

苦學の方法は其の種類が多数に涉つて居る故、勢ひ其の通ふべき學校等によつて違ふのである、中學から高等學校、それから帝國大學、最後に大學院を卒業すれば博士の學位を得られるが、苦學せんとする諸君には此の順序を踏む事は出来ない、否出来ない事は無いが並大抵の事ではやり抜けないのである、諸君學士の肩書などを振廻す時節ではない、諸君は成功の曉博士會議へ論文を提出して學位を請求すべし、學士の肩書などは實力で蹴飛ばしてやる分の事だ、何しろ諸君は苦學に都合の能い學校に入り、苦學に都合の能い職業を擇ぶべしだ、諸君は金儲けが本業ではないのだから、餘り利益のみに眼をくれても不可であるが、去りとして儲かるものはうむと儲けて、大に参考書でも買つて勉強すべしだ、故に須らく儲け且學ぶべきである、是れより列記する職業は、苦學に適當なものを描出したる故、其の選擇は諸君に一任する事にする。而し諸君は學問と働き即ち二人分の仕事をする事なれば、身體の養生は專一に留意すべきである、如何に學問をしても身體が健全でなければ駄目であるのは、諸君のもと

より知らるゝ如くである、故に諸君は未來の成功を得むが爲めには、學問の進歩と共に身體の健康を計るべしである。

下宿屋生活

下宿屋生活と云へば香氣で極容易の様に聞えるが、東京の下宿屋は下等でも一ヶ月十
一二圓はかゝる、それに雜費や小使、學校の月謝から書籍代等を合算すると一ヶ月少
くも十六七圓は掛る故、苦學の諸君よは或は不適當かとも思ふ、學問をした上は十六
七圓の金を働き出すのは中々出来ない話した、尤も或る者は廿餘圓の給料を取りなが
ら、學校へ通つて居るが、其れは例外であつて飛出しの諸君が収入とすれば、宜くて
十五圓少なければ八九圓位のものである、故に國から補助でも來る者は兎も角も、自
分の腕一つで切り抜けやうとする者は、下宿屋生活などは到底不可能な話である、尤
も諸君が少し東京に住馴れて、事情に通じて來れば澤山な骨も折らずに、収入も増え
而して心配もなく學問もして行けるが、始めからそんな事を望むでも、決して駄目な

事であるから、危な半分の下宿屋までへ這るより、學問の方を勉強して傍ら他に追々
と好い職業を見附けるのに心を注ぐべきである。

自炊生活

市中を歩いて見ると、至る處「かし間」かし二階」の札がある、苦學生は此の一室を借
りて自炊するのが尤も經濟である、間料は三疊二圓半、四疊半三圓、六疊四圓も出せ
ば大威張だ、それで大抵は前金に拂えば其れでよいで、途中で出るとすれば日割にし
て戻すのである、何も座敷が廣いからとて、金が儲かるでもなし學問が進むでもない
から一人なら三疊二人なら四疊半もあればよい、素より自炊生活故自炊道具一通りは
如何しても買はなければならぬ、土釜七厘洋燈などを初めとして、貳圓も買えば充
分である、左様すれば一ヶ月七八圓もあれば優に生活が出来るのである、尤も自炊故
下宿屋生活とは違へ、飯炊などを仕なければならぬが、此れは極手易い事で、朝廿分
も早く起れば用は足るのである、それで學校の費用全部を合せても十圓内外であるか

ら、苦學生には尤も能いと思ふのだ、下宿屋屋などに居つて少からぬ金を儲けられて居るより、此の自炊生活をして、餘つた錢で營養物を採るとか、参考書でも讀む様にしたら、如何に利益がある事であらう、況して下宿屋生活は、種々雑多の人が居る爲め勢ひ喧騒を免れないが、此の借間生活は其の様な事のないのも亦一の特徴であるまいかと思ふのである。

活版職工

市内至る處の活版所は多ければ數百人、少なくとも數人の職工を使つて居る、仕事は幾種類にも分れて居るが飛び出しの素人にも出来るのは、運轉手として印刷機械の原動力としてある大きな鐵車を廻すもので、此れは大きな工場になると電氣や蒸氣でやるから必用はないが、中以下の工場では大抵三四人は雇つてある、紙差は印刷機械へ紙を挿入する者、紙取として印刷された紙を揃へる役、各機械一臺に一人づゝである、それから解版此れは組むのである活字を解除する役、假名返しは解版した假名の活字を野集

へ返す役であつて、皆誰にも容易に出来る仕事である、それから少し馴れて來ると文撰と云つて原稿を見ながら字を拾ふ役だ、是れとても別に六ヶ敷はなく半年も辛棒すれば立派に拾ひる様になる、日給は一日十時間勤務で、廿五錢から五十錢得るには容易である、文撰でも日給五六十錢で、植字にでもなれば一圓位になる、何しろ此の活版職工は文字を取扱つて居る仕事だから一番よいと思ふ、而し晝間學校へ行くには駄目だが、夜學になきは平氣で通へる、市内幾百の活版所には、随分多くの苦學生が這入り込むで、將來の成功を夢みながら、いろはのいの字だと文撰歌を唱へながら、意氣揚々としてやつて居る故、大に話せる者も少くないのだ。

牛乳配達

立志小説にでもありそうな牛乳配達、是れは苦學生には持つて來いの職業である、先づ夜の二時頃起きて市外の牧場に牛乳を取りに行き、歸つて來るのが大抵三時頃、それから殺菌して瓶に詰めて配達に出掛けるのは四時位である、配達する家は一人で大

凡二百軒内外里程にすれば五里位のものである、それだから餘りなまけさいしなれば七時か七時半頃で終る、それから家へ歸つてが自分の暇で、寝るなり學校へ行くなり勉強するなり、夕刻の配達までは勝手である、夕方の配達は朝の空瓶も集めるのであるが、大抵四時頃から出掛けて、六時半頃には急がなくても終つて了ふ、それから空瓶の洗濯だが、此れだとして二時間も掛れば樂に終るから、それからは寝られる譯なのだ、而して此の牛乳配達は朝夕配達夫の香料として、大抵五六合の乳は餘分に持たせて呉るから、此れを呑みながら活動する故、大に壯健に成つて營養分などを別に採る必用はないのである、給料は住込なら一ヶ月五六圓、通ひとすれば一ヶ月十二三圓であるが、漸々馴れて来て配達區域でも殖えれば十五圓位は容易であるから、何れにしても學資などに差支る事はなく、普通にして居れば豊かにやつて行けるのである、女ですら牛乳配達で苦學をして居るものがある、男子なれば朝飯前の事でも云ひたい位だが、而し多少の困難のある事は心得て置かねばならぬ。

新聞配達

新聞配達此れも牛乳配達と同様、苦學には尤も適當な職業で、即ち本社附の配達と、賣捌店附の配達との二種類がある、本社附の配達は、其の社から發行する丈の新聞を配達するので、只順路に配達する家さへ覚え込めば譯ない事である、初め二朝計りは古參の配達夫に連れられて、購讀者の家を教はるのだが、是れとて氣を付けてやりさすればすぐに呑込めるから心配はない、配達戸數は大抵二百軒か三百軒位である、が中には四百軒も配る健脚者もあるとの事だ、給料は七圓から十二圓までであるが、それは配達戸數の多い少ないに因るのである、収入は比較的少したが、何しろ配達が朝の四時頃から初めて、八時頃は終つてしまつてあとは自分勝手なのだから、勉強する暇は勿論、晝でも夜でも學校へは自由に通へる、特に或る新聞社の如きは、配達夫は皆苦學生と限つて、態々寄宿舎を建て、置く處もある。

賣捌所付の配達夫も、本社付の配達夫と別に變りはないが、只配達する新聞が、彼家

は報知此家は朝日と皆家毎に種類が違つて居るから、餘程面倒であるが五六日やれば馴れて了ふ、矢張り初めは古參の配達に連られて配達すべき家を教はるのは、本社付の配達と同一である、而し賣捌店付の配達夫は、毎夜交代で三時頃から、本社まで新聞を取りに行かねばならぬが、大抵一週間に一度位のものである、尙賣捌店付の配達となると如何しても夕刊を配達せねばならぬが、朝の配達の三分の一もないから五時に出て六時頃には終つてしまふ、朝の配達も五時頃から出かけても八時頃には歸つて來されるから晝の學校へなど行くのは好都合である、給料は住込で四五圓、通勤で十二三圓だが、配達戸數を多く受持てば十四五圓になるが、そんな事は中々不可能の事であるから望まぬがよいのである。

廣告募集員

廣告募集員は新聞社雜誌社又は廣告取次店に雇はれて廣告募集をする業務である、一寸した服装も入るし、又比較的辨舌が能く應接に如才なく、所謂外交の手腕がなければ

ば甘くは行かないのである、先づ雇はれると新聞雜誌社が取次店の肩名のある名刺を持つて、能く新聞や雜誌に廣告する商店會社などを訪問して、廣告を依頼されん事を求むるのである、此の仕事は比較的困難な處も多いが、漸々顔でも知れる様になれば數種の雜誌新聞をかけ持たして、愉快な仕事をして行けるものである、東京には諸君の如く學費を得る爲めなく、随分是れを專業として居る者も尠くないのである、それは此の廣告募集員は少しの手當の外、大抵歩合である故、自身の募集高に應じての收入であるから、腕次第で五十圓から百圓位譯なしに收得して居るものもある、而し諸君には斯様に甘くは行かないが學費位は優に得られ事は必然だりである。

筆 耕

字が一寸奇麗に書けさへすれば、意外の收入もあつて勉學にも適當なのは筆耕即ち寫字生である、此の仕事は書籍雜誌の原稿とか、講義の筆記とか議事録の筆記、裁判所の豫審圖書など其の他有ゆる記録などの、粗末に書いてあるのを清書するのであつて

市内には此れ等の者を雇入れる處も随分澤山あるが、京橋區數寄屋橋外の大成社などは最も多くの人員を使つて居る、筆耕料は其の寫す物に因つて差があるが、普通半紙一枚一二錢内外であつて、一日は廿五枚少し奮發すれば卅枚位は書けるとの事である中には随分美濃一枚七八錢のものもあるが、此れ等は容易に書けるものでないから、餘り字が上手でなくも多く書ける者を選ぶべしだ、それで此の寫字生は其の家に居つて書くのもあるが、自宅へ持ち歸つて自分の都合のよい時書いてもよいから都合のよい事もある、一ヶ月十二三圓になるから優に學校へも通ふ事が出来る。

書 生

書生など云ふと随分思ふまゝに行かないで、勉強などは思ひも寄らぬ事と、考える者もあるやうだが、東京の良家の書生は中々そんなものではないのだ、仕事と云へば庭の掃除や朝夕の戸の開閉、來客の取次位が關の山で、其の他は自分の部屋で勉強が出来るから、心配なしに吞氣に勉強出来るのは、此の書生に限るのである、其れで慈

悲深い主人までも當れば、随分多大の學費を投じて學校へも通はして呉れ、我が子も及ばぬ世話をして呉れる者がある、これでもなくとも普通大抵夜學校位は通はして呉れるから、充分に勉強は出来る譯だ、月謝や雜費などは無論小遣として給せられるから心配はない、辯護士、醫師、官吏、軍人其他中流以上の家庭では、大抵此の書生を置くから傳手を求めて紹介して貰へば、いくらも雇つて呉れる家はある、それで書生を置く位の家の主人は、皆社會に相當の位置ある人であるから、思はぬ成功の指導者と爲つて貰ふ事が出来るものである。

郵便電信集配人

郵便電信集配人は毎日規則正しく學校へ通ふよは不適當であるが、一寸した塾へでも通ふとか、圖書館へでも通つて獨學でもしやうと云ふには適當である、集配人は大抵東京各區の二等局では絶間なく募集して居るから、身元保證人に願書と戸籍謄本などを添へて差出さば、ほんの規則的の試験があつて、直に採用されるのだ、勤務時間は一

晝夜勤めて、一晝夜休めるのであるから、勉強の時間は充分である、それで日給少くも三十錢であるし、皆勤すれば毎月賞與金もあるから、出たてから一ヶ月十二三圓にはある譯で、奢さへし爲ければ勉強は豊に出来るのである。

諸會社の人夫

東京幾百千の會社では、皆相當の人夫を雇用して居るから、少しの勞働さい厭はあければ、相當の給料をとり乍ら極安氣に勉強する事が出来るのである、先づ有數な一二の會社を左に紹介する事とするが、他の諸會社とても諸君が其の手續さへすれば、採用して呉れるから、直接照會して見るがよろしい、種々な會社には随分苦學生が入込むで、大に未來の青雲を眺めて奮勵して居るから、大分話相手に成る者があるのである、而し斷つて置くが、何しろ澤山の異分子が集合して居る處故、中には随分無頼漢とかあどの醜類が居らぬでもない、否實際居るのであるが、諸君は夢にもろんな奴輩に近寄つてはならない、而し或る場合此の様な奴輩は意外の勢力を持たぬでもないか

ら、大に敬遠主義をとつて居るがよいのである。

▲電燈會社 の人夫は随分多數のもので、志願書を麹町有樂町の本社へ差出せば、大抵缺員があるから採用される、仕事は電線を架けたり、地下線を引いたりするなどの手傳で、誰にも出来る仕事である、一日十時間勤務であるから夜學なら平氣で通へる給料は最初安くて日給三十二錢で、時間外の仕事をすれば一時間に就き、日給十分の一を給せられるから、初めから十二圓位はとれる譯である。

▲東京鐵道 の人夫も多數であるから志願さへすれば譯なく採用される、仕事は架空線及軌道の修繕などで、別に六ヶ敷事はないので、勤務時間や日給なども電燈會社と大差はない、それで此の會社の工夫は一定の制帽があつて、其の制帽を被れば電車賃はロハであるから、夜學へ通ふ學生なせば、眞黒赤顔へ此の制帽を被り袴をはいて電車から飛下りて、學校の門を這入る處などは、青白い顔で學校から俵でのたり出す金満學生よりは、一種の決心の色が見えて頼母しいものだ。

▲點燈夫 點燈會社は東京點燈と日本點燈の二會社があつて、各數百人の點燈夫を使つて居る、して各區に皆數ヶ所の出張所があつて、時々募集するから其の時に志願すればよいので、手續など別に大した事は要らぬのである、仕事は朝早く起きて油釜と洋燈掃除の切布を以て、各戸を廻つて油を注し乍らホヤなどを掃除して歸るのだが、大抵六時頃から始めて九時半頃には絶へる、それから自分の暇であるから勉強するなり、何をするなり勝手なのだ、夕方は大抵四時か五時頃から(日の短い長に依るから)燈をつけに廻るのだが、是は大抵掃除の時の三分の二の時間位かゝれば終るのだ、日給は大抵三十錢から四十錢位の間だから、勉強するには少しも差支はないのである。

砲兵工廠其の他の職工

東京には砲兵工廠を初め、種々の工場は澤山ある故、此等の工場にも亦多數の苦學生が居るのである、左に二三を紹介する事とする。

▲砲兵工廠 砲兵工廠は小石川區小石川町にあつて、陸軍の兵器を製造するは諸君の知らるゝ處である、數千人の職工を使用して居て、毎年二三回は公然廣告して募集するが、其の他多數の事である故年中缺員があるから臨時募集したり、又何時志願しても大抵採用せらるゝのである、採用の規定は年齢十八年以上三十五年以下で、身體健全輕罪以上の罪を犯したことがない者であればよいのである、幸に同廠に奉職して居る官吏か職工に知己でもあれば、其の人に頼むで願書を出せば案外容易に採用されるのである、茲も採用になると保證人を立て、戸籍謄本を差出ねばならぬのだ、給料は十時間勤務で、初めは廿八錢か三十錢であるが外に割増金があるから卅五錢位にはなり、三ヶ月も辛棒すれば四十錢位はとれる故、夜學校へでも通ふには極適當な處であるのだ。

▲印刷局 印刷局は麴町大手町にあつて、政府の印刷工場なる事は諸君の知らるゝ通り、其職工の數は二千人餘で有る、事によると新聞紙等に廣告して募集する事が有

るから、其の時志願すればよいが、日常でも多数の職工の事だから絶えず缺員が有るから、同所の官吏か職工に頼むで置けば大抵這入るので有る、採用規定は年齢十四年以上廿五年以下、身體健全で高等小學卒業の程度で充分で有る、保證人二名に戸籍謄本を差出すのであるが、刑法に觸れた事のあるものは駄目で有る、それから極簡單の採用試験があるが、それは心配する程の事はない、給料は十時間勤務で、十八年未満の者は拾五錢なら廿錢内外、其れ以上の者は卅錢位を支給されるのである、それで六ヶ月々勤めると漸々昇給して中又は一日五十錢もとる者がある、若し時間外に働けば一時間毎に日給十分の一を増給せらるのである。

▲千住製絨所 此れも陸軍省の經營する軍用毛布製造所であつて、志願の資格は年齢十八年以上三十五年以下で、輕罪以上の罪を犯したことがない者であれば採用せられるのである、志願書式などは同所に印刷してあるから貰つて記入する方が簡便である採用されると二名の保證人に市町村長の身分證明書を差出さなければならぬが、保

證書なども同所に印刷したものが有るから志願書と同時に貰ふ方がよい、給料は矢張り十時間勤務で、一ヶ月十三圓位であるが、昇給の途があつて少し辛棒すれば日給五六十錢は容易に取れる様になる、夜學など行くには適當の處である。

人力車夫

初めの内は少し骨が折れるが、少し辛棒して呼吸さへ覚えて來れば、人力車夫位面白く且短時間働いても、割合に収入があつて、充分に勉強が出来るものは恐らくあるまい、而し人力車夫に成るには少しの資本が必用である、即ち成規の神田なら神田、本郷なら本郷第何番と書いた提燈と發被を拵らなければならぬ、此れは双方で約一圓もあればよい、其の外笠とか股引なども是非なくては許さぬし、又毛布も是非必要であるが、こんな物は古着屋から一圓も出して買つて來ればよいのだ、こんな具合で二圓半か三圓の資本は如何しても必要である。

さて愈々人力車夫たるの陣立が出来たならば、貸車屋と特約して人力車を一臺貸りる

のだ、貸賃は一日大抵十一銭か十五銭位の間だ、それで特約談判が成立したら、車を引張つて提燈を提げ、發被を着て、所轄の警察署あり分署なりへ行くのだ、それで願書を提出すると愈々許可に成る、そうすると提燈へ前言ふた通り番號を書かせる、發被へも番號をつけさせられる、さあ斯様なれば最早天晴一個の車夫で有つて、人を乗せて何萬里引張廻そうともか構ひなしなので有る。

而し始めの内は中々困難で有るから、つまらなく飛び廻らないで除々に引き出すべしだ、それで苦學せんとする諸君は、如何しても晝間學校へ通つて、夜引いた方が得策だらうと思ふ、うれば外でも無いが、諸君は學問するのが本業で有るからで有る、何も夜間だからとて學問が出来ぬ譯ではないが、人力車夫などは晝間などより夜の方が思はぬ収入が有るもので有るから、晝間勉強して夜の短時間に大に働くべきで有る、まづ學校から歸つて来て、夕飯でも早く済したら、こここそ出掛けへした、成可く人の多く通る處に居れば別に旦那参りませうをやらなくとも、相當の客は有るもので有

る賃錢は大抵相場が有るから、貸車屋の主人公に飽く聞いて置く方がよいので有る、而し餘り佳美に飾立て、くだらぬ金でも使ふ様な奴と見たら、大に賃錢を高くとつてやるべしだ、何も構う事はない、彼等が無駄に費す錢が、一部分でも諸君の學費にあるので有るから、眞に喜ぶべき事ではないか。よしんばそんな事は無いにもせよ、一晩に五六十銭の収入は有るので有る、尤も其れは給料とは違つて、其の時の出來不出來にも有るが、平均六十銭位は容易の事である、其の内損料を差引ても五十銭位は餘るから、學校へ位は優に通へ、其の内段々呼吸を覺えて來れば随分學費に餘る位になるので有る。

屋臺の夜商賣

屋臺の夜商賣、是れは一步違つた仕事で有つて、一寸商賣と聞くと經驗が無ければ駄目の様と思ひるが、素人でも充分に出來て、且収入も意外に多いから面白いではないか、夜商賣にも、おでんや、大福屋、一品洋食屋など數種類有るが、素人の諸君には

れでんやと大福屋の合併店が適當と思ふので有る、一品洋食屋は多少の経験も必用で有るが、おでんやや大福屋はうんな経験、何も入らないので有る、先づ開店する時には、屋臺、酒徳利、小皿、銅のれでん鍋、火鉢、大福を焼く鐵板、盃などが必要で有る、是等を新調するとしては拾圓未満の金、要するから、屋臺などは損料で貸りの方が得策で有る、左様すれば其他の道具は三圓、買へば充分で有る、道具も整つて愈々店を出すすれば、豫め賣れそうな處を夜見て歩いて選定する必要が有る、それから夕刻から出店して、大抵一時頃まではやつて居るのである、人に依ると徹夜して居る者も有るが、諸君は何も金儲が主義でないから、一時迄もやれば澤山で有る、何しろ大福は一個五厘でうけて一錢に賣から倍にもうかり、酒などは水酒をやけに熱くかんして賣るべしだ、是れも一合五錢のもで九錢位には苦情なしに賣れる、其の他おでんの原料なども、皆安いものを買込むで高く賣るべしである、斯く言ふと餘り暴利を締る様であるが、決して左様ではない是れが夜商賣の普通なのであるのだ、而

し賣残りが澤山あると困るから仕入方も大に加減すべしだ、而し少し馴れるとそんな事はない、何しろ此の様な具合で少くも一夜に一圓、多ければ三圓位賣れるから、随分意外の収入を得るものである、飛出しの素人でも一夜に五十錢以下のもうけと云ふ事は恐らくなく、少くも六七十錢はもうかるものである。

或る苦學生の如きは、毎夜此のおでんやの店を出した處、意外に仕入れた爲大分残品が多いので、毎日學校で同輩に命令的に僕が愈々夜商賣を開業したから、残品は君等が来て食ふべしだ、との事を云ふて學生一般を義務的にお客にしたこの事であるが、左様な事は仕なくとも充分の利益は得らるゝから心配の必要はない、而し著者が茲に書いた計りでは、其の方法などは到底不可能であるから、百聞一見にしかず、大に彼等夜商賣の店を實見すべしである、お世辭も入らず眞に香氣のものである、是等と同様の今川焼の夜商賣もあるが比較的収益がなく、且多少の手間取があり経験も要するから略す事にした、然しやり方等は此れと大差はないのであるから、強いてやらうとすれ

は州來む事はないから大にやゝべしである。

其他苦學に適當なる職業

以上列記した職業は、苦學に最、適合した諸種の職業であるが、尙東京だけあつて皆學生、適當なる職業は少くないのである、著者は尙數種の職業を記して諸君に紹介する事にする。

▲諸種の行商 此れも初めは中々至難の業であるが、段々馴れるに従つて夜商賣と聞くと面白ものであるのだ、先づ納豆賣の如きは、一苞五厘で仕入て來て朝早く起ると、納豆々々と賣歩けば、一苞一錢で五十苞七十苞は譯なしに賣れるのである、尤も此の納豆は昔朝食の膳に上るのであるから、是非朝飯前に賣歩かねば駄目で有る、而し五十苞買れたとすれば廿五錢は儲けである、少し馴ると百位賣れるから、苦學生の生計費及學費には充分だ、朝飯前の仕事には甘いではないか、其他積物の行商、パンの行商等皆相當の收入があるが、大同小異で有るから略す事にした。

▲賣貸家の探査員 東京市内には至る處賣貸家貸問案内所ある處が有る、此等の家は賣貸家などを探す人の爲めに、探査員と云ふ様なものを置いて、毎日市中を探らして其の家の間敷、價格、家賃等を調べて帳簿へ記入し、相當の閲覧料をとつて見せるのを營業として居るのであつて、其の探査員は大抵書生等である給料は大概日當卅錢から卅五錢位である。

▲新聞賣子 此れは新聞賣捌店から、毎朝一枚三厘平均四厘平均位で新聞を仕入て、それを鈴をならし乍ら市内を賣歩くのであつて、新聞に依つて二枚で一錢又は一枚一錢で賣るので有るが、百五十枚も買れば五十錢位の利益は優に得らるので有る、而し是れは月極新聞を購讀して居らぬ様な處を歩くのが最もよく賣れるのであつて、例へば小商人の多、町か、學生や薄給者の住むで居る町を撰ぶべしで有る。

▲官署の雇書記 東京の諸官署では皆澤山の雇書記を雇用して居るから、紹介でも知已から貰へば大抵通入れるのである、其の官雇は幸知已でもあれば尙更妙で有る、或

る官署などは一定の雇用試験をするが、是れだとも何も六ヶ敷事はない、高等小學卒業位で充分である、而し紹介さなければ試験などは無しで採用して呉れる、仕事は大抵筆寫位であるのだ、勤務時間は普通午前九時から午後四時までだから、勉強するには持つて来ひで有る、民間の仕事だと少し忙しいと夜業もさせられるが、お役所的で時間さへ来ればよいのだから、止むなく學校を休む様な事はない、日當は三十錢から五十錢位までだから、夜學などへは優に通へるのである。

▲官署會社の給仕 是れも雇書記と大差はないが、年少者を尙ふのであるから、十二歳から十六七歳までの少年には極適當である、東京至る處の官署會社では、多ければ十數人少くも二三人の給仕は雇用して居る、時々新聞などで募集する事もあるが、矢張知己なきに紹介して貰つて這入るがよい、仕事は種々あるが、帳簿の持運びとか上級員の命令に依つて少用等を辨すのが専務である、それで用事がない時は、自ら勝手に勉強する事が出来る、勤務時間は午前八時から午後四時位までが普通である、給料

は大抵六圓から九圓位であるのだ。

圖書館の獨學

學問をするには穴勝學校へ通ふより外無いと云ふ事はない、當今有數の學者中にも、隨分學校教育は小學校の課程も受けないで、己れが一心の獨學で天晴雷名を轟かした人、尠くないのである、何しろ學問をするには學校より何より熱心なのである、されば諸君も都合上或は事情等の爲め、一定の學校へ通ふ事が出来ぬならば、暇のある時圖書館へ通つて大に獨學すべしである、圖書館は天下有ゆる圖書を蔵して、公衆に閱覽せしむるのは諸君の知らるゝ通りである。

東京には先づ上野の帝國圖書館と初の、麹町番町の大橋圖書館、日比谷公園の市立日比谷圖書館、深川公園の市立深川圖書館等で、各圖書館共大抵の圖書は整つて居るが専門に學ぶなどは如何しても帝國圖書館である、帝國圖書館は午前八時の開館、午後十時の閉館であるから、其の間は何時出掛けても満員でない限りは入館が出来るの

である、圖書の閲覧料は普通三錢特別五錢であつて、先づ入口で閲覧券を求めて這入れば、目錄室があるから其處で目錄を見て、何でも自分の好きな本を借りて見られるのである、階上階下共宏大な閲覧室があつて、幾千人の閲覧人は朝から晩まで勉強して居るのである。

苦學に適當なる諸種の學校

東京には各種の學校は至る處に溢れて居つて、其の數幾百千なるか、到抵知る事が出來ない位である、而して或る種の學校などに至つては、随分怪しい物も尠くないでもないが、而し大抵の學舎は皆相當の學生を收容して、其の卒業生も大半は世より起つて居るのである、されば苦學に適當なる學校も多數であるが、茲には其の主なるもの丈記して、其の他の學校は諸君の撰擇に任せる事にするから、諸君は己れが將來の志望に依つて、其の學校も各自撰ぶべしである。

▲慶應義塾商業學校 芝區三田にある、簡易の商業學校としては第一位にあるもので

卒業生が皆相當に採用せられて居るのを見ても分る、修業年限は二ヶ年學期は毎年三月一日に始まつて翌年二月末日に終るので、學費は入學金一圓月謝一圓校費二拾錢、授業時間は午後六時よりであるから、晝間職にあるものでも通學する事が出来るのである。

▲東京主計學校 神田區美土代町にあつて、銀行會社其他官署商店の會計事務に従事せんとする者を養成するところで、豫科本科別科に分れて居る、豫科は本科に入る準備として必要な學科を授くるので修業年限は一年、豫科を卒業すると本科でこれも一年で卒業するのだ、別科は總べての會計に應用すべき簿記と珠算を専修する爲めに設けられてある、此の外年長者の速成就職に便する爲め撰科が設けられてある、これは會社計算部銀行計算部の二部で各六ヶ月卒業だ、本校は名譽ある評議員賛助員を有し殆ど全國の銀行會社商店等に聯絡があるから、卒業生には及ぶ限りの就職の周旋方法を講ずるとの事だ、生徒の入學を許すのは毎年三月と九月で、品行方正身體健全年齢

十六年以上で高等小學卒業の者は無試験で豫科へ入學が出来る、其の他は相當學力ある者である、入學料は一圓授業料は豫科一ヶ月二圓本科撰科別科は二圓五十錢、外に校友會費として一ヶ月十錢を納めねばならぬ。

▲大原簿記學校 本校は神田美土代町二丁目にある、簿記の學理と實地とを併せ教授して、官廳銀行會社商店等の簿記係を養成し、且つ日用工業農業等の簿記學も授ける處で、修業期間も短ければ學費も左程多くも要せず、晝間職業のある者には夜學部も設けてあるから、苦學には比較的適當の學校である、況して此の簿記の需要は世の進歩に従ひ、益々盛むになるのであるから、卒業者は就職に困難する様な事は少ないのである、學科は六科目に分れて居るが、單に一科目又は數科目を專修する事が出来る教授の方法は尋常速成特別の三科で、斯學の教員志望者の爲めに專攻科も置いてある修業期間は一科四十日で、日用工業農業の三科は商川銀行官廳の三科を卒業したものは一科十五日で、速成特別は皆其半ヶ月である、入學の際は束修金一圓を要し、月謝

は尋常科一圓五十錢、速成科特別科は二圓五十錢、毎月十五日以後に入學する者は其の月に限り半額である、然して在學者には毎月一冊の講義録と雜誌とを無代で配布される、それで本校には寄宿舎の設備があつて、一ヶ月八圓で寄宿せしむる様にしてあるから、他の下宿などより至極經濟である。

▲明治藥學校 神田區猿樂町二番地にある、將來藥劑師たんとする者を養成する處である、蓋し醫師と藥劑師は便宜上分業になるべき筈であるが、我國では未だ藥劑師の数が甚だ少ない爲め、止むを得ず醫師が其役を務めて居るが、軍隊や大きな病院などは已に醫師と藥劑師が分業になつて居るから、將來は必ず多くなる藥劑師を要するは申すまでもない話だ、本校は修業年限一ヶ年半で毎年四月と十月に生徒を募集する滿十四年以上で修業年限四ヶ年の高等小學卒業又は是れと同等以上の學力がある者は入學を許される、入學金は二圓月謝は二圓五十錢であるが、外に實習用の藥品費等を要する、本校の授業は夜間であるから苦學には最も適當である。

▲工手學校 本校は京橋區南小田原町四丁目にあつて、邦語を以て土木機械電工建築造船採鑛冶金應用化學の各科を教授して、其の工手を養成するにあるのだ、修業年限は豫科一年本科一年半で、高等小學卒業の程度あれば入學を許される、夜學部の設もあるから晝間業務にあるものも至極都合がよい、學費は入學金一圓月謝豫科一圓五十錢本科二圓、校費は一學期(六ヶ月)晝間は金五十錢、夜間は金壹圓である。

▲岩倉鐵道學校 下谷區上車坂にあつて、將來鐵道事業に従事すべき技術員及業務員を養成する處だ、學科は建設科機械科業務科の三つに分つてゐる、修業年限は二年で學年は毎年四月及十月に始まる、入學資格は高等小學卒業の程度あれば容易に出来るのである、而して又中學二年修了者は第一年後學期へ入學を許されるから、一年半で卒業する譯だ、入學受験料は五十錢、東修一圓五十錢、月謝は一年級は一圓五十錢で二年級は二圓である、本校には寄宿舎もあり、又鐵道院との聯絡がある故卒業者は心配なしに就職し得るのである、尙ほ斯學の道與を極めんと欲する者の爲めには高等研

究科も設けられてゐる。

▲職工徒弟學校 淺草藏前にある高等工業學校の附屬で立派な官立學校である、目的は最も高等なる職工を養成するにあるので、木工科機械科金工科の三科に分れて居る修業年限は三ヶ年で、生徒募集は毎年四月である、資格は品行方正身體健全で年齢十二年以上十三年以下、尋常小學卒業の學力あれば充分である、身體検査に入學試験もあるが、それは算術讀書等の極簡短なものである、月謝は廿五錢實修用の道具などは皆學校から貸與するから心配はない、卒業後二ヶ年間は現業練習の爲め、本校の監督を受けて實地の作業をせねばならぬが、其の時は日給三十錢以上五十錢以下を支給される、愈々此の義務を濟せば職工認定證書を下附されて、何れの會社でも工場でも争ふて高給で雇用する様になる。

▲東京府職工學校 は本所區林町にあつて、東京府の經營する公立學校である、目的は實技と學問とを兼備せる模範職工を養成するにあるので、本校の卒業生は芝浦製作

所、石川島造船所、東京瓦斯株式会社等、有名な大工場で特に採用する事に成つて居るから、前途中々有望のものである、修業年限は三ヶ年、高等小學二年を修業した者の學問があり、年齢十二年以上の者は入學が出来る、授業料などは一切徴集せられざるのみならず、實技に要する機械工具其の他の物品は皆貸與せらるゝ故、一文も要らない譯である、然し入學の時は五六圓の費用を要する、其れは製圖器械と仕事着を拵らなければならぬからである、志願の者は毎年三月に願書を出せばよいのだ、遠方の者の爲めには醫師の體格検査書に願書を添へて出願すれば、特に試験をせずに入學の許否を通知して呉れる事になつて居る。

▲速記教授所 は麴町區富士見町五丁目にあつて、速記術を教授する處である、近頃の様には演説講説其の他議會とか繁雜なる電話等には、皆速記を以てする様にあつたから、此の速記を學ぶも實に成功の捷徑であるかと思ふのである、此處は重に夜學であるから、苦學よりは尤も便利である、月謝は大抵一圓五十錢位であつて、他には別に

費用は要さぬが、速記を練習する爲めに毎月多數の用紙が必要である、修業年限も別よ定まつては居らぬが、普通二年も通えば辭かな話位は書ける様になるから、其れからは自分で練習すれば充分である。

▲其の他の學校 然し諸君が中學校を経て、順次に高等の専門學校へ這入とするも、亦大に可なる事と信ずる故左に比較的確實なる中學校を列記する故、自分の望む學校を撰ぶべしである、校則は皆大差はないが強いて知らむとするならば、郵券を封入して請求すべしである。

東京府立第一中學校

麴町區西日比谷町

東京府立第二中學校

府下北多摩郡立川町

東京府立第三中學校

本所區柳原町一丁目

東京府立第四中學校

麴町區飯田町五丁目

京北中學校(私立)

小石川區原町鷄聲ヶ窪

- 日本中學校(私立) 麴町區山元町
- 商工中學校(私立) 麴町區大手町一丁目
- 錦城中學校(私立) 神田區錦町三丁目
- 早稻田中學校(私立) 牛込區早稻田大學構内
- 東京開成中學校(私立) 神田區淡路町二丁目
- 明治義會中學校(私立) 本郷區駒込蓬萊町
- 京華中學校(私立) 本郷區東竹町
- 曉星中學校(私立) 麴町區飯田町三丁目
- 順天中學校(私立) 神田區仲猿樂町
- 大成中學校(私立) 神田區三崎町
- 獨逸協會中學校(私立) 小石川區關口水道町

尙私立の大學を初め其の少なるものに至つては、其の數幾百千なるか到底計り知る事

は出來ない位であるが、左に其の内の有望なるものを記して、諸君の參考に供する事にする故、詳細の規則は矢張り其の校に請求して知るへしである。

- 早稻田大學(私立) 牛込區早稻田
- 慶應義塾(私立) 芝區三田
- 東京法學院大學(私立) 神田區錦町二丁目
- 明治大學(私立) 神田區駿河臺南甲賀町
- 日本大學(私立) 神田區三崎町三丁目
- 法政大學(私立) 麴町區富士見町六丁目
- 専修大學(私立) 神田區今川小路二丁目
- 哲學館大學(私立) 小石川區原町
- 國學院大學(私立) 麴町區飯田町五丁目
- 東京高等工業學校(官立) 淺草區藏前

東京高等商業學校(官立)	神田區一ツ橋通町
東京商業學校(私立)	神田區錦町二丁目
早稻田實業學校(私立)	牛込區早稻田
簿記專修學館(私立)	神田區今川小路
東京簿記學校(私立)	神田區猿樂町
京華商業學校(私立)	本郷區東竹町
東京高等農學校(私立)	府下豊多摩郡澁谷村
東京物理學校(私立)	牛込區神樂町一丁目
順天求合社(私立)	神田區仲猿樂町
東京慈惠院醫學專門學校(私立)	芝區愛宕町
東京齒科醫學專門學校(私立)	神田區三崎町二丁目
日本醫學校(私立)	神田區淡路町

東京藥學校(私立)	下谷區上野櫻木町
東京美術學校(官立)	下谷區上野公園内
東京音樂學校(官立)	下谷區上野公園内
成城學校(私立)	牛込區原町三丁目
海城學校(私立)	麴町區日比谷町
東京外國語學校(官立)	神田區錦町三丁目
國民英語學會(私立)	神田區錦町三丁目
正則英語學校(私立)	神田區錦町二丁目
獨逸語專修學校(私立)	神田區西小川町一丁目
麻布獸醫學校(私立)	麻布區新堀町

金を呉れる學校

今日は一日も早く生活問題にたづさはらねばならぬ世界の状態だ、此れから何物をか

得やうと志しつゝある諸君に、特に金を呉れる學校を紹介するのである、即ち東京は芝公園にある通信傳習生養成所なのである、目的は將來通信事務に従事すべき官吏を養成するにあるのだ、生徒の募集は他校とは違つて、二ヶ月目位には必ずあるのである、その時は各郵便局に掲示されるから、其の日限迄に願書を監理課養成係へ差出せばよいのである、志願者の資格は年齢満十三歳以上十九歳以下で、身體健全なるものとの規定であるが、他の學校より比較のお手軽で肺病でもなければ大丈夫だ、尤も耳の遠いものなどは不可だが近視眼は大抵關はぬ、それで身代限の處分を受けた事の無い者、重禁錮以上の處罰を受けた事の無い者(國事犯ならいゝのだ)等で高等小學校卒業以上の學力ある者は宜いのである。入學試験は一次試験二次試験の二種がある、一次試験は國語(講讀、作文、筆蹟)英語(講讀、譯解、書取、習字)算術の三種だが、小學卒業なら平氣である、英語もナショナルの三位が讀めれば澤山だ、算術は四則、分數、小數、比例の簡易なものである、二次試験は算術、地理、理科の三科目で、算術

は一次試験より稍進じたものだが大した事は無い、地理は日本地理と外國地理であるが外國地理は極々簡易のものだ、それで二次試験が済むと急假入學といふ事になる、それから約四週間も経つと技術試験があるが、是れは四週間のうちに習つた技術を試験されるのだから、何も心配する程の事は無いのだ、此の試験が終ると本入學となつて、一日廿錢以上廿五錢の手當金が貰へ、加之教科書を貸なされる、級の三つに分れてゐて、三級が一番下で二級一級と云ふ順序である、三級は二ヶ月で二級一級は一ヶ月づつで、丁度四ヶ月で卒業の譯であるが、大抵は六ヶ月位かゝるとの事である、六ヶ月以上は置かぬ事になつて居るから、六ヶ月やつても出られない者は退學である、首尾よく試験にも合格して卒業證書を貰ふと直ぐ翌日から辭令を貰つて郵便局に務めるのだ、十三か十四の少年が官吏になる譯で、日給三十錢以上を貰けると云ふ次第である、其れから本人の腕次第で、高等官にでも局長にでもなれるのだ、而し金を呉れて養成されたのだから、二年間は通信省部内に奉職しなければならぬ事にあつて居る

要するに官吏となつて一生身を立てやうとするには、金を貰ひつゝ學びで地位を得る故、甘い事と云はざるを得ないのである。

貸費で養成する學校

近來は學事獎勵の爲めに、何れの學校に至るも貸費生の制は設けられてあるが、其等は各學校の規則を見て知る事として、左に官公立諸學校の中貸費を以て養成する二三の學校を紹介する事にする。

▲東京府師範學校 本校は赤坂區青山北町五丁目にあつて、小學校教員を養成する處である、生徒募集は毎年三月で人員や試験期日は其の都度公告する、而し各學級に缺員があれば臨時募集をする事がある、修業年限は四ヶ年で、志願者は年齢十五年以上廿歳未満で、高等小學卒業以上の學力を有する者である、在學中は一切の費用を學校から貸與されるが、卒業後十ヶ年間は小學校教員の職に従事するの義務がある。

▲農科大學實科 は府下豊多摩郡代々木村にある、一つの専門學校とも云ふ可きもの

である、其科目は林學科農科獸醫科等であるが、其の獸醫科の陸軍委託生となる事が出来る、之は毎月十圓近くの學費を支給せらるゝが、其代り卒業後は陸軍に奉職せねばならぬ、其階級は學醫及一般將校と同一である、募集は官報新聞等に公告するから其の時志願すればよい、入學資格は中學校卒業程である、

▲陸軍軍樂生 志願者は體格強健齒列正しく虫歯のない、年齢十七年以上二十年以下身長四尺九寸以上の者で、高等小學卒業の程度で試験とする、試験科目は讀書作文算術の三科目である、軍樂生は入校の日より常備軍籍に編入され、其期限中は必ず陸軍に従事しなければならぬのだ、被服や食料諸機械等一切官給せらるゝのみならず、若干の手當金も支給せらる、修業期は一ヶ年で卒業後は陸軍樂手補を命せられ、外泊も出來被服も官給されて月俸拾四圓を給せられる、其の後は本人の技倆次第で樂長にまで昇級する事が出来るのである。

▲陸軍砲兵工科學校 此は小石川區小石川町にあつて、陸軍の砲兵工長を養成する處

だ、入學した者は砲兵工長候補者といひ、二年修業の後鞍工長木工長銃工長となるのである、此の工長は伍長の待遇を受け進んで特務曹長まで昇進する事が出来るのだ、入學資格は年齢十八年以上二十三年以下身長五尺以上で、妻ある者禁錮以上の刑に處せられた者は駄目である、志願者は身元保証人二人の連署した願書に履歴書を添へて毎年三月十五日迄に市町村長を経て聯隊區司令官に差出すのである、入學試験科目は歐書作文圖書歴史算術で、高等小學卒業の程度である、愈々採用になると十二月十五日に入校を命ぜられて校内に居住する事となり、被服食料書籍及消耗品等は勿論官給で、尙一ヶ月一圓廿錢の手當を給せらるゝ、此の學校は軍人であるから規律も嚴重であるが、比較的昇級が早いのである。

▲其の他の學校 以上の外貸費若しくは一部貸費を以て養成する學校を左に列記する、各自所望の學校に就き承合すべきである。

高等師範學校

本郷町湯島三丁目

東京高等商業學校

神田區一ツ橋通り

工業教員養成所

淺草區藏前片町高等工業學校内

東京外國語學校

神田錦町三丁目

陸軍中央幼年學校

牛込區市ヶ谷本村町

陸軍士官學校

牛込區市ヶ谷本村町

東京商船學校

京橋區靈岸島

水産講習所

深川區越中島

製鹽技術員養成所

深川區越中島水産講習所内

臺灣協會學校

小石川區小日向茗荷谷町

小學校教員講習科

赤坂區青山北町五丁目東京府師範學校内

林業講習所

府下荏原郡目黒村

東京音樂學校

下谷區上野公園内

就職の手續

就職の手續、是れ恐らく衆人の苦心する所なのである、如何に多額の學費を投じて修養したとしても、就職する事能はざれば、錦を着て夜行するにも劣る事であつて、實に馬鹿くしき事なのである、然るに現時社界の状態は斯くの如き事多きを如何せんやである、最高の學府を出でたる學士すら、尙職なきに苦しみつゝあるのである、されば諸君は如何にして就職すべきかであるが、要するに學校より正札を付して出す人物以外に於ては、所謂就職なるものは其の人の手腕より、推薦人如何にある大なるものである、故に別に技倆も無きものにして高給を得、相當の學識あるものにして職なきも苦む、又故なきにあらずである、然りと雖も著者は茲より斷言して止まざる事がある、何？就職の能不能は熱心の如何にありと、學識あるの士職なきに苦しむ、推薦人のあきさの致す處と雖も、亦熱心の足らないのである、如何となれば技倆と熱心は相反

するもので、如何に技倆あるも熱心なければ職あきさし苦しむの以所であつて、要するに多くの人士は己れの技倆を鼻にかけて居る故、職につく事が出来ぬ者も尠くないのである、されば諸君は熱心を以て職を求め、而して後技倆を示すべしである、熱心の及ばざる處なしだ、況して人生易やたる就職の如き熱心より見れば朝飯前の事である見よ就職なき者すれ大工場を起し、眼に一丁字なき者する巨萬の富を得るではないか是れ熱心あるのみである、故に著者は管々しく就職の手續を説明するの要を認ない、只就職の手續は自己の熱心にありと云ふのみである。

成功の秘訣

己れを知るは成功の秘訣であるとは、先哲の言であるが眞に然りである、己れを知り即ち己の體力に適當し己れの資力に適當し、己れの精神に適合したる事を爲せば必ず成功するものである、盲蛇物に驚かずとか、適合せるか否やも確めずに盲蛇的に事を爲せば、失敗する事は火を見るよりも明らかな事である、されば諸君は適度の理想を

抱くべしである。而して其の理想に向つて有ゆる熱心を注ぎ、除々として進むべきである。世には随分一成功の爲め數代を閲した例も少なくないが、現今は成功を性急とするのみである、斯く成功が一朝一夕に出来得るものなれば、敢て心配の要はないが成功は至難中の至難なる事は諸君の既に知らるゝ處である、故に確固たる精神を以て用意周到に進むべきである、著者は成功の秘訣を以て左の七要素として諸君に告ぐるのである。即ち

- 一、時勢に適合せる學問を爲す事、
- 二、自己の嗜好に適する職業を撰ぶ事、
- 三、終身修養を怠らざる事、
- 四、目的を變せざる事、
- 五、確固たる精神を以て進むべき事、
- 六、成功を性急にせざる事、
- 七、己は成功すべく生を享けたるとの感念を忘れざる事等であるのだ。

結 論

著者が不敏の筆を弄して、東京苦學成功の方法を述べたるは以上の如くであるが、是

は眞に或る一部分のみであつて他に幾多の方法もある事と信するのである、然し乍ら茲に精巧なる機械あるも、其を運用する人がなければ、如何に精巧なる機械も無用の長物たるが如く、著者が如何に記述するも、運用する諸君にして熱心を欠くが如き事があつては、即ち本書も無用の長物に過ぎないのである、要するに諸君に於て、岩をも貫く固き精神があつて、苦學成功に突進せられたならば、本書の如き一部の標準に過ぎないので、即ち諸君が生ける苦學成功案内を作るのである、著者は諸君が悉く生ける苦學成功案内を作られん事を熱望するのである。

著者は無難なる辭を吐露したのを、幾重にも謝すると共に、諸君が本書に依りて奮起し、他日大に成功せられん事を天地に祈りつゝ、擲筆する事にする。
未れ起てよ、世の青少年諸君。

著 者 一 言

▲本書苦學案内中規則の如きは限りある誌上であるから詳記する事が出来ぬ故各校よ

つき承合せられたいのである。

▲本書は早卒の間に記述した事故意味の通じない處も尠くないと信するが幸に諒せられん事を。

▲本書記載外に於ける苦學の方法及學校等又多數の事と信するが其は諸君に於て撰擇せられたいのである。

東京 苦學成功案内 終

明治四十二年九月廿二日印刷
明治四十二年九月廿五日發行

定價金廿五錢

東京市四谷區塩町三丁目卅四番地

著作兼發行者 酒 卷 源 太 郎

東京市下谷區南稻荷町五十一番地

印刷人 吉 岡 秀 之

東京市下谷區南稻荷町五十一番地

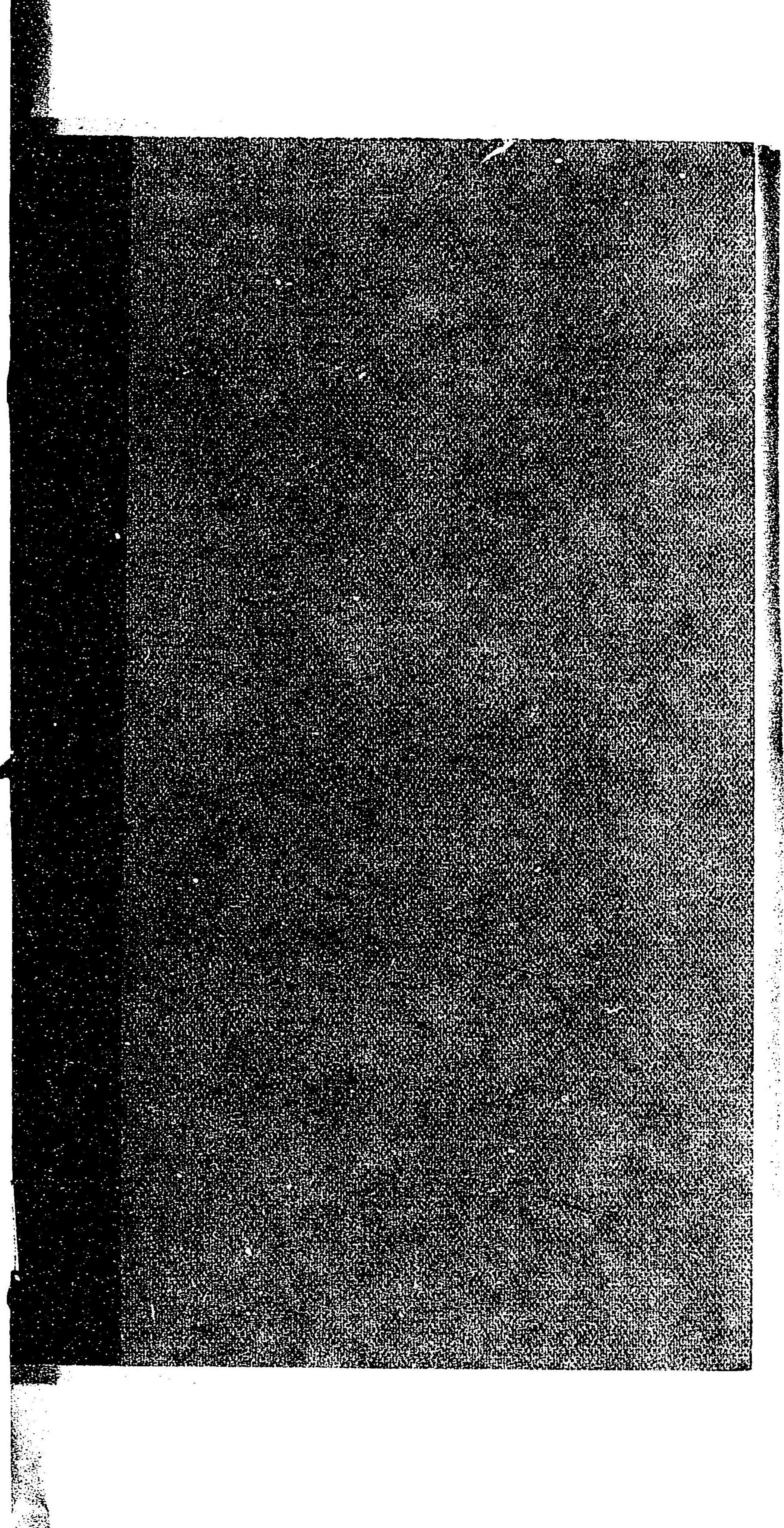
印刷所 同 工 會

不 許
複 製

東京市四谷區塩町三丁目

發行所 帝國少年會出版部

259
623



特23

649

東京 苦学成功案内

国立国会図書館

049083-000-7

特23-649

東京苦学成功案内

帝国少年会

M42

BEK-0066

